

## ⑫ 公開特許公報(A) 平2-202808

⑬ Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	⑭ 公開 平成2年(1990)8月10日
A 61 K 7/00	K	7306-4C	
A 23 L 1/212	A	8328-4B	
1/30	B	8114-4B	
A 61 K 7/06		8314-4C	
7/16		6971-4C	
7/32		6971-4C	
7/50		6971-4C	
35/78	ADD C	8413-4C	

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑯ 発明の名称 キウイ果実エキス溶液又はその濃縮エキス

⑰ 特 願 平1-22991

⑱ 出 願 平1(1989)1月31日

⑲ 発 明 者 坪 井 誠 岐阜県大垣市宮町1丁目25番地  
 ⑲ 発 明 者 安 藤 裕 岐阜県大垣市三塚町998番地  
 ⑲ 発 明 者 松 井 建 次 岐阜県岐阜市加野1677番地7号  
 ⑲ 発 明 者 小 島 弘 之 岐阜県各務原市下中屋町2丁目224番地  
 ⑲ 出 願 人 一丸ファルコス株式会社 岐阜県山県郡高富町高富337番地  
 社

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

キウイ果実エキス溶液又はその濃縮エキス

## 2. 特許請求の範囲

[1]

加熱処理後のキウイ果実に対して、約2倍量の水を加えて粉砕した後、ろ過して得られた溶液に対して、同量のエタノールを加えて攪拌後、静置、熱成し、次に、ろ過して得られた溶液中に固形分として1、0%以上を含有することを特徴とする、キウイ果実溶液又はその濃縮エキス。

## 3. 発明の詳細な説明

(イ) 発明の目的

本発明は、キウイ果実(果汁、果肉)から得られる改良されたエキス含有溶液、又はその濃縮エキスに関する。

「産業上の利用分野」

本発明によるキウイ果実エキス溶液、又はその濃縮エキスは、水の系中に配合して、清涼性に優れると共に、さらに、水とエタノールの溶液中に

配合しても、清涼性に優れ、濁り、沈殿の発生が極めて少ないことが特徴である。

よって、本発明によるエキス溶液、又はその濃縮エキスは、あらゆる形態の服用、原薬用の化粧品(医薬部外品類)に該当する美容化粧品、歯みがき、口中清涼、消臭剤、及び固型錠、粒状、透明状の肌又は髪製用石鹸類、又は洗淨剤などを含む)に配合して用いることが出来ると共に、あらゆる形態に加工された食品、菓子、冷蔵、プリン、ゼリー、さらに栄養飲料、炭酸飲料、清涼飲料等に配合して用いることが出来る。

「従来の技術」

(a) 含有成分に関する文献調査

キウイ果実中に含まれる主な成分としては、「新編 日本食品事典」昭和57年4月5日発行 医歯薬出版の439ページに平均値(含量)が示されている。(次表、<sup>1)</sup>表)